

第53回家庭科教育研究者連盟夏季研究集会アピール

主権者としての生活者を育てる家庭科教育の役割がますます大きくなっている現在、
子どもの生活をまん中に、いのち、平和と人権・民主主義を求め続けてきた家教連は、憲法・1947 教育基本法・子どもの権利条約を生かした家庭科教育を発展させ、家庭科の魅力を発信していくことを決意します

2018年の夏、私たちは「生かそう 憲法・子どもの権利条約 ——子どもたちの現実・生活から出発する家庭科」をテーマに、第53回夏季研究集会を小田原でもちました。「個人の尊厳を大切にする教育」の意味を深め、確かめあった記念講演はじめ分科会等で、参加した仲間たちと共感しあいながら多くのことを学び、新たな飛躍に向けての自信をかためあいました。

世界は平和を求めて大きく動いています。

世界中が固唾を飲んで見守った2018年4月27日の南北首脳会談、6月12日の米朝会談は、世界の平和を求める大きな意思表示の場となりました。軍事的対立は武力では解決できない、平和的対話こそが道をひらくとの思いが一つの形になった瞬間でした。世界は平和を目指していることが確信できました。

しかし日本国内では、世界の流れ、国民の願いに背を向ける動きが激しさを増しています。今、国会で多数を占める与党は、憲法がめざす方向とは、真逆の方向を向き、社会保障費を削減する一方で、軍事費を増やしています。国民に真実を語らず、国民を欺こうとする姿勢を露わにし、政治倫理を逸脱し、立憲主義を踏みにじる事態が後をたちません。

安倍政権は、改憲をねらい、そのための「教育再生」を掲げ、戦後民主教育をゆがめ続けています。憲法違反の教育勅語復活容認、家庭教育支援法案の制定の動きなど、子どもを国や社会に役立つ「人材」に仕立て上げる教育政策がつぎつぎに出されています。一方、子ども達の貧困・格差是正の施策はなおざりにされたままです。

私たちは、今次夏季集会のさまざまな場面で、新学習指導要領などに現れた安倍流「教育再生」の問題点、ことに今年度から小学校で始まった「特別の教科 道徳」の現状と問題点、来年度から始まる中学校道徳教科書採択の実態や教科書の問題点などを明らかにしました。さらに「自助・共助・公助」に惑わされることなく、子どもの生きる権利の保障、社会保障の充実、安全な食の根本問題、家庭や地域をめぐる問題など家庭科教育の課題を明らかにすることができました。どの子どももすこやかに育ってほしいという国民の願いをもとに、18歳成人の課題を含め、すべての人が人間らしく輝き働き続け、憲法を生活に生かしていく課題も明らかにすることができました。

私たちが家庭科教育で目指す方向は、世界の人々、日本国民の願いと重なるものだと強く確信しています。

私たちは、小中高校生や大学生たちが、個人の尊厳の確立をめざし、自分に自信をもち、未来の自分に希望が持てる教育の実践、学校づくりを国民とともに進めていきます。日常の生活を題材にしている家庭科は、まわりのおとなたちとの関わりあいや人権を大事にしながら、子どもたちが生活をしっかりと見つめる目を育てています。

若者世代の意識にも生活自体にも大きな変化をつくってきた男女共学家庭科25年の実践が、広く社会でも認識され、期待されていることを実感し、家庭科の魅力と可能性に確信を持つことができました。

私たちはこれからもいっそう仲間を増やし、いっそう多くの人々とつながり家庭科教育を発展させていきます。

主権者としての生活者を育てることをめざしている私たちは、社会や学校教育のすみずみに、憲法と1947教育基本法、子どもの権利条約の精神を生かし、子どもをまん中にした、いのち・平和と人権・民主主義をまもり生かす家庭科教育の実践をすすめ、家庭科の魅力をさらに発信していくことを決意します。